

参議院 国土交通委員会で質問に立ち、主に以下の内容について質問しました

国土強靱化(ミッシングリンク解消や4車線化等による道路ネットワーク強化)について

2023.3.9

吉井委員

今後、高速道路のミッシングリンク解消及び暫定2車線区間の4車線化などによる道路ネットワーク機能強化を早急にしっかりと進めて頂くことが必要だと思っておりますが、この部分について伺います。

国交省

委員御指摘の山陰近畿自動車道の整備により、国道9号とのダブルネットワーク化による強靱化、また観光の活性化が期待されているところです。また、京都縦貫自動車道につきましては、園部から宮津天橋立の間、約58キロが暫定2車線で、4車線化により災害に強い道路ネットワークの構築が進むと考えております。道路ネットワークの機能強化を着実に進めてまいりたいと考えております。

国道1号新バイパス(京都～滋賀間)の早期実現に向けて

2023.3.9

吉井委員

この国道1号新バイパス整備については、国道1号京都一大津間として、計画段階評価着手に向けた調査を推進する区間と指定されています。平成29年度に議員連盟を立ち上げ、翌30年度には、期成同盟会も発足し、要望を行ってきたところであります。整備に向け、平成30年度から実施されている交通円滑化等に係る調査について現時点の調査結果についてご報告頂きたいと思っております。

国交省

早期にこの滋賀京都連絡道路の計画の具体化が図られますよう、関係自治体と連携し、検討を進めてまいりたいと考えております。

ローカル鉄道について

2023.4.20

吉井委員

民間にできることは民間に任せてということでここ数十年來た中で、このままでは弱いところは幾らでもダメージを受けてしまい、一極集中という形になり、地方は取り残されていく一方です。改めて、国として、国交省として、これまでの公共交通に対する考え方、また逆にこれからの公共交通に対する考え方をお伺いします。

国交大臣

これまでの考え方は、長い歴史の中で事業者任せの部分があったと思っております。しかし、この地域公共交通、その事業者も含めて大変厳しい状況で、これを国民生活を守るために再生させていかなくてはいけないという観点から、これからの考え方としては、地域の関係者が共に創る共創を通じ、地域公共交通、リデザインをしていく。このため、国の関与を強化し、予算や制度の面においても国が積極的に関与し、地域の関係者間の連携と協働を促進するための枠組みを大幅に拡充するというもので、地域ごとに再生協議会ができることとなります。国土交通省としては、本年を地域公共交通再構築元年として位置付けて取り組みたいと思っております。

